

人権教育シンポジウム（人権教育啓発講座1）

- 1 日時及び会場 平成28年7月11日（月）13:30～16:30 県立教育研究所 大講座室
- 2 参加者 市町村教育委員会教育委員長、教育委員、教育長、市町村社会教育委員会議議長、社会教育委員、社会教育主事、社会教育関係団体指導者及び構成員、市町村教育委員会事務局職員、教職員（小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校）、保護者等
《203名》
- 3 内容 13:30～13:40 開会あいさつ
13:40～16:20 人権教育シンポジウム

<人権教育シンポジウム>

テーマ 「障害者の権利に関する条約の具現化に向けて」

[シンポジスト]

八木三郎（天理大学准教授）
喜多学志（社会福祉法人ひまわり施設長）
池崎善久（奈良県障害者差別をなくす条例推進委員会役員）
熊本圭祐（奈良県健康福祉部障害福祉課主査）

[コーディネーター]

九鬼立明（奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課主幹）



- 内容
- ・ 昭和24年に身体障害者福祉法がつくられ、日本では初めて障害者という言葉が登場した。障害者は家族が介助等の関わりをもつことが当然とされる風潮の中、外国から東京パラリンピックに出場した選手の社会人として働いているという事実や、懸命にスポーツに取り組む姿は、当時の日本人にとって大きな驚きであった。しかし、その後も社会に積極的に行こうとする障害者に対して、「障害者をとりまく社会を変える、環境を変える」取組はなかなか進展せず、日本の社会はまだ閉鎖的であった。
 - ・ 2006年、障害者権利条約、2013年、障害者差別解消法ができ、奈良県では本年4月1日より「奈良県障害のある人もない人もともに暮らしやすい社会づくり条例」が施行された。障害のある人を排除するのではなく、これらの法や条例を実効性のあるものにし、いろいろな人がいて当たり前という社会、いわゆるソーシャルインクルージョンを目指すことが、今後の障害者に関する人権問題の課題となってくる。
 - ・ 日本における障害者施策は奈良時代の養老律令までさかのぼり、その歴史の積み重ねの上に今の障害者観がある。日本では、平均・標準を重視し、違うことを良しとしないところが見受けられ、平均と離れた人は生きづらさを感じている。条約の批准・条例の策定を契機として、「だれもがともに幸せに生きる社会の実現」に向けて、たくさんの人と対話しつつ取り組むことが重要である。
 - ・ 「障害者差別解消法」は、障害のある当事者にかかわる「課題」や「問題点」を十分に明確にする構造ではないため、今回、より当事者の意見や気持ちを反映し、障害者差別の内容を明文化し救済のしくみを含んだ「奈良県障害のある人もない人もともに暮らしやすい社会づくり条例」が制定されたことは、障害者にとって非常に画期的なことである。障害者への差別がくり返されることがないように、この条例をさらに社会に浸透させ実効性のあるものにする取組を引き続き続けていくことが重要である。

- ・ 自分自身は小学校時代に多数のいじめにあい、泣き寝入りが多くくやしきでいっぱいだったが、まわりの先生のおかげで今に至っている。条例ができてよかったと思うし、辛い人はがまんせずいろいろなところへ相談してほしい。できるならゆっくりでいいから障害を理解してもらった上で、障害のある人にできることはないか声をかけてもらいたい。
- ・ 「奈良県障害のある人もない人もともに暮らしやすい社会づくり条例」のポイントは、障害を理由とする差別の禁止、相談体制と解決のしくみ、障害及び障害のある人に関する理解の促進の3点である。この条例に関する取組に当たって、例えば「あいさポーター運動」などへの参加など、それぞれができることを通じて、障害のある人だけでなく、全ての人にとって暮らしやすい社会になるよう、地道かつ継続的に取り組んでいくことが重要である。
- ・ 障害者への差別だけでなく、さまざまな差別はつながっている。あらゆることに対して他人事にしないという考えのもと、教育や啓発を通じてより多様性が尊重される環境づくりが必要である。
- ・ 相談窓口が設置されてから、5月末で11件の相談があった。条例の周知はまだまだ不十分なところもあり、今後より積極的に説明に出向いたりイベント等を実施し、さらに啓発に努める必要がある。
- ・ 目に見えない障害で悩み、心を痛めている人もいるという認識を持ち、それぞれ心のバリアフリー化に引き続き取り組んでいく。そして、「私だったらどうか」と考え、相手の立場で物事を捉えるということが、「社会はいろいろな人がいて当たり前」というノーマライゼーションのものさしになるのではないかな。これからもたくさんの人と対話しながら、引き続きこれらの問題を進めていくことが重要である。

<参加者の感想から>

- ・ 障害者の問題に限らず、あらゆる人が自分らしく生きられる社会づくりのために、それぞれの立場で何を考え、どんな一歩を踏み出すのかを考える糸口をいただいた。
- ・ 心のこもった一つ一つのコメントが心に響いた。障害のある人の気持ちに少しずつ近づけるよう勉強したい。
- ・ 教育に関わるすべての人が人権意識を高め、人として何を大切にすることをしっかり考えるべきだと思う。
- ・ 人と人を結ぶことを基としながら、この条例が広く社会の中に浸透していけるように少しずつでも進んでいきたい。

